

5月19日(火曜日)「イスラエル捕囚となる」

【新改訳 2017】

Ⅱ 列王記 17・1－18

「こうなったのは、イスラエルの人々が……
彼らの神、主に対して罪を犯し、ほかの神々を
恐れ……異邦人の風習……に従って歩んだ
からである。」(7、8節)

「こうなったのは」とは、イスラエル(北王国)
がアッシリア王の支配下に置かれ、捕囚の身
となったことです。神の民が、今や全く異邦
人の下に置かれ、悲惨な状態になってしま
いました。BC721年ごろと言われます。

原因ははっきりしていました。彼らの神、主
に対して罪を犯し、預言者の警告も聞き入れ
ず、宗教的にも道徳的にも妥協し、混合して
しまい、神の聖なる民の資格を失っていた
からです。アッシリアの王は、北王国を異邦人

の住む地ともしてしまいました。

ヤロブアムが北王国イスラエルの王となって以来、代々の王は彼の悪の道に歩み、ついに約 200 年後には滅亡に向かったのです。彼の宗教は「似て非なるもの」だったのです。私たちが気をつけねばなりません。

～祈り～

主よ。私たちを、疑似信仰からお守りください。あなたに対して罪を犯すことがありませんように。

【学びのために】

23日の日課「ユダ王国の捕囚」も参照。北王国（イスラエル）と南王国（ユダ）の両国の捕囚は、それぞれ、神のさばきとも重なっていました。